

## ボツワナ共和国月報(2019年4月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- ベンソン＝モイトイ候補, 与党BDPを相手取り緊急裁判
- マシシ大統領, 与党BDPの大統領候補に決定
- 数百万プラがボツワナ軍福祉基金から消える

#### 【外政】

- マシシ大統領, カタールを訪問
- ラマポーザ南ア大統領, マシシ大統領に謝罪
- 政府の外交政策の変更に係る外務国際協力大臣発言

#### 【経済】

- 希少ブルーダイヤモンド「オカバンゴ・ブルー」の披露
- IMF, ボツワナの2019年の経済成長率予測を上方修正

#### 【文化】

- 東北の美しい手仕事巡回展の開催

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

#### 【内政】

##### ○ 2016年選挙法は全会一致で廃案へ

3月28日, 国会は2016年選挙法を廃案とする法律を通過させた。同選挙法は電子投票機械(EVM)の導入や選挙人登録期間延長の廃止などを含んでいた。(1日:デイリー・ニュース紙)

##### ○ ベンソン＝モイトイ候補, 与党BDPを相手取り緊急裁判

2日, 与党BDPは, ベンソン＝モイトイ候補がBDP大統領候補選に出馬するために集めた50名の党代表者(delegate)の署名のうち26名を無効とした。3日, ベンソン＝モイトイ候補はBDPを相手取って緊急裁判を提訴し, 26名の代表者の署名を無効としたことの取り消し, BDP大統領候補者選挙に関するルールの明確化, 5日に開催予定のBDP特別総会の中止および公平な選挙が担保されるまでのBDP大統領候補者選挙の延期を申し立てた。4日, 午後2時に開廷する緊急裁判に先立ち, マシシ大統領とベンソン＝モイトイ氏は本件を平和的に解決するために会談を行ったが, 合意には至らなかった。裁判は, 午後11時まで続いたが, ベンソン＝モイトイ候補の訴えは棄却された。(各紙報道)

##### ○ マシシ大統領が与党BDPの大統領候補に決定

5日, ボツワナ西部の街, カン(Kang)で, 本年10月の総選挙を見据えた与党ボツワナ民主党(BDP)の大統領候補者を決定する特別総会が開催され, 現職のマシシ大統領がBDPの大統領候

補になることが決定した。ベンソン＝モイトイ候補が特別総会の数時間前に辞退したことで、マシシ大統領は対立候補がなく選出された。(8日:デイリー・ニュース紙, その他各紙で報道)

#### ○ 国会議員の給与改定

国会議員の給与が改定され, 現在国会議員が受け取っている月給23, 786プラから, 39, 197プラに増加した。大統領の月給は89, 588プラ, 副大統領78, 586プラ, 国会議長60, 416プラ, 大臣60, 416プラとなった。(12日:ガーディアン紙)

#### ○ ブリジット・モツェペの資金はローカルセキュリティ会社に繋がる

ボツワナの金融情報庁(FIA)は, ハボロネにあるアヴァンテ・セキュリティ・サービスの口座を凍結した。その理由は, ベンソン＝モイトイ前大臣のBDP大統領候補選のための資金をロンダリングするために, 同社が南アフリカのビジネスマンであるブリジット・モツェペ・ラデベに利用されているという疑いがあったからである。FIAは, モツェペ氏が所有する会社マカウ・マイニングから既に500万プラ, 200万プラ及び400万プラの取引があったことを確認した。その後これら資金はアヴァンテ・セキュリティ・サービスの口座から直ぐにベンソン＝モイトイ候補に関連のある数多くの口座に送金された。(7日～13日:サンデー・スタンダード紙)

バロピBDP事務局長は, ANCのシニアメンバー(ブリジット・モツェペ・ラデベ)がベンソン＝モイトイ候補を支援するためにボツワナに資金を密輸したという報道を受け, 兄弟のような友人であり, 南アフリカの与党であるANCがBDPに潜入し不安定化させたと公然と述べている。(12日:ガーディアン紙)

#### ○ ボツワナ軍による軍事パレードの実施

13日, 国立競技場で, ボツワナ軍設立42周年を記念した軍事パレードが行われ, マシシ大統領, ツォフワネ副大統領, カーマ前大統領らが参加した。(15日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 数百万プラがボツワナ軍福祉基金から消える

数百万プラが元兵士及び現役兵士の福祉基金の指からこぼれ落ち, 誰が関与したのかという疑問が起きている。ボツワナ軍監査室の内部査察は, 同基金がボツワナ軍が査察を実施し始めた2013年以前に, 横領, 使い込み, 及び, 詐欺で少なくとも900万プラを失ったと結論づけた。カティ国防大臣によると, 既に合計400万プラが警察による捜査により回収された。8名が既に職務停止となり, 事案は将来的な訴追のために検察当局に送られた。(14～20日:サンデー・スタンダード紙)

#### ○ IOMにより21の人身売買のケースが報告される

IOMによるとボツワナで21の人身売買のケースが確認され, うち16件は現在訴訟中である。IOMによると, ボツワナは人身売買における被害者であり「source(出所)」となっており, またボツワ

ナを經由して他の国に連れて行かれることから「transit(中継地)」であり、さらにボツワナに連れてこられる人もいるので「destination(目的地)」にもなっている由。ボツワナでは2014年反人身売買法が成立し、2018年には現実との乖離を埋めるために改訂も行われている。一方で、米国が2018年に作成した報告書によると、ボツワナは人身売買をなくすための最低限の基準も満たしていない。(19日:ガーディアン紙)

#### ○ BURSがボコの羽をもぎ取る

航空機を使って出来るだけ多くの選挙区を回るというドウマ・ボコ野党連合UDC党首の意図は、BURS(ボツワナ統一歳入庁)が同航空機の使用を許可していないことで頓挫している。ジェット機とヘリコプターの2台は、フランシスタウンに着陸後、関税法に抵触しているとの疑いで、未だに地上にある。(26日:ガーディアン紙)

#### ○ APマニフェストを発表

ハオラテ野党AP党首は、他の政党に先駆けてマニフェストを発表し、非鉱物の輸出を促進し、6年間で経済を倍にすると表明した。さらに、同6年間で、失業率を20%から10%にすること、毎年1000億プラの国内外の投資を引きつけること、製造業をGDPの20%に押し上げること、労働者を守るために労働法を強化し、さらに技術移転を可能にすることなどを表明した。(26日:ガーディアン紙)

#### ○ BDPマニフェストを発表

27日、BDPは、経済の移行、雇用創出、富の平等な分配を基礎とした2019年総選挙のマニフェストを発表した。マニフェストは、貧困のサイクルをなくすことに主眼を置いた社会的救済の活性化とともに、包括的な憲法、法律、政策の見直しを通じた経済の移行を約束している。マシシ大統領は、経済の成長及び多様化のために、雇用創出、外貨獲得のための新しい分野の開発、税收の増大に焦点を当てた生産的な輸出に投資する必要があると強調した。同マニフェストは2036年までに高中所得国家から高所得国家入りするという国家戦略に同調するものである。また、雇用の創出は、農業、観光、ダイヤモンドを含む鉱物資源のバリューチェーンを開発することで強化する。さらにマシシ大統領は世界銀行と再生可能エネルギーの分野で協力していると述べ、ボツワナの太陽光発電のポテンシャルを存分に生かすこと、また気候変動に関する規則を遵守しつつクリーンエネルギーの分野で世界をリードするためにこの分野への投資を強化すると述べた。(29日:デイリー・ニュース紙)

#### 【外交】

#### ○ 日本大使館が教室を建設

3月26日、平成30年度対ボツワナ草の根・人間の安全保障無償資金協力「クウェネン地区ハツァラタディ村幼稚園建設計画」の署名式が行われた。竹田大使は本件が2018年度の最後の案

件であり、ボツワナにおける通算56件目の草の根・人間の安全保障無償資金協力案件であると述べた。(2日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 4か国の大使が信任状を奉呈

2日、クレイグ・クラウド(Craig Cloud)米国大使、ヨハネス・ピーターズ(Johannes Peters)蘭大使、コマテ・カマラナヴィン(Komate Kamalanavin)タイ大使及びセザール・ザバラ(Cezar Zavalla)ウルグアイ大使がマシシ大統領に信任状を奉呈した。(3日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ マシシ大統領、ルング・ザンビア大統領とカズングラ橋に関し会談

2日、マシシ大統領はザンビアを訪問しルング・ザンビア大統領とバイ会談を行った。会談の一部は、カズングラ橋建設事業に関し、信頼を確認することであった。一時建設業者への支払いが滞り、建設が止まっていたが、支払いがされてから再開されていた。また、両者はジンバブエを同事業に参加させるということで一致した。(3日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ マシシ大統領、ノルウェーに求愛

8日、マシシ大統領はマリアン・ハジェン(Marianne Hagen)ノルウェー外務副大臣と会談し、ボツワナの牛肉の輸入の割合を増やすよう要求した。さらに、同大統領は同副大臣に対し、拘束力が無い一般特惠関税制度から貿易協定へ移行してはどうかと呼びかけた。一方、ハジェン副大臣は、太陽光発電等の分野での協力の可能性を探っていること及びSACUと貿易協定について交渉中であると述べた。(9日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 中国共産党代表団のマシシ大統領表敬

8日、中国共産党吉林省委員会のバヤンチャル(巴音朝魯)書記を代表とする代表団がマシシ大統領を表敬訪問した。同大統領はボツワナの「一つの中国政策」への支持を繰り返し、同政策は台湾、香港のみならず、チベットにも及ぶものである旨発言した。さらに中国代表団に対し、ボツワナは両国の国益を損なうことはしない旨発言し、同大統領の昨年の訪中が政治的な協力で支えられているコミットメントであり、習近平国家主席をボツワナに招待することでお返しをしたいと述べた。(10日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ マシシ大統領、カタールを訪問

14日～16日にかけて、マシシ大統領は国賓としてカタールを訪問し、タミーム・ビン・ハマド・アール＝サーニー首長らと会談を行った。マシシ大統領は、カタールビジネス協会とも会談し、ボツワナの投資先としての魅力を説明した。また、訪問中には防衛、文化、政治、及び、若者・スポーツの4分野で覚書が結ばれた。マシシ大統領は「カタールは現在包囲網の中にあり、ボツワナは彼ら(カタール)に寄り添うべきであり、納得できない理由で苦しめられているカタールのような小さな国に同情すべきである」と述べ、さらに「政治での協力における覚書は、多国間協議の場で必要性

が出てきた時にボツワナがカタールの協力を得ることを助けてくれるだろう」と述べた。今回のカタール訪問には、多数の閣僚が同行した。(15, 16, 17日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ マカト運輸通信大臣、一帯一路フォーラムへ参加

マカト大臣は中国・北京を訪問しており、23～27日にかけて開催される第二回一帯一路フォーラムに参加している。同大臣にはエビネン運輸通信省次官及び政府職員が同行している。(23日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ ラマポーザ南ア大統領がマシシ大統領に謝罪

南アフリカ与党アフリカ民族会議(ANC)の一部メンバーがBDPの大統領候補者選挙に必要以上に干渉したことに対して、ラマポーザ南ア大統領がマシシ大統領に謝罪した。しかし、BDPの大統領候補者選挙でベンソン＝モイトイ候補を支援したと報じられているブリジット・モツェペ氏はラマポーザ大統領夫人の姉妹であり、規律違反に問われる可能性は低い。さらに、南アの大富豪であるパトリス・モツェペ氏は、ラマポーザ大統領の義理の兄弟にあたり、来る総選挙に向けた同大統領の主要な財政支援者である。(24日:ボツワナ・ガゼット紙)

#### ○ ニビジラ・ブルンジ外務大臣の訪問

23日、エゼチエル・ニビジラ(Ezechiel Nibigira)ブルンジ外相はマシシ大統領と会談した。同外相は、ブルンジが最近ニッケルと金を発見したため、ボツワナの鉱物資源の利用の仕方について学びたいと述べた。さらに同外相は、ブルンジがSADCに加盟申請したことを明かした。(25日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 政府の外交政策の変更に係る外務国際協力大臣発言

ダウ外務国際協力大臣は、リビアやスーダンといったアフリ諸国の現在の不安定な状況に関するボツワナの沈黙に対する質問に答える形で、ボツワナ政府が他国との関係において沈黙外交に戻った旨発言した。国際関係の専門家であるモカワ博士は、マシシ大統領政権は拡声器外交から沈黙外交に変更したようであると最近指摘した。同博士は、ボツワナが常に沈黙外交に帰依してきたことを考えれば、この変更は意外なことではないと説明し、ほとんどのアフリカ諸国がこうした外交アプローチを採用していると述べた。(26日:メヒ紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

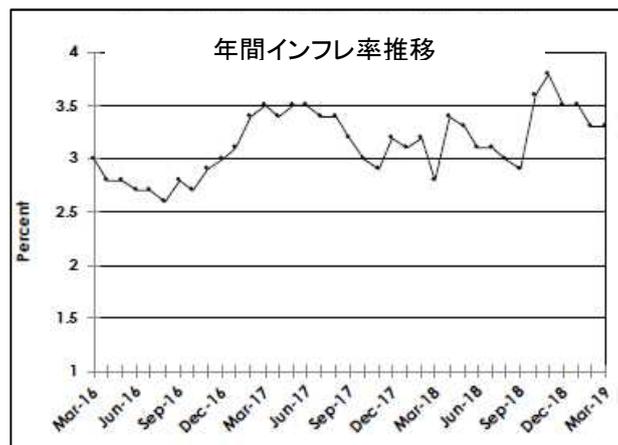
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2018年第4四半期の GDP は484億9160万プラとなり, 第3四半期(486億9930万プラ)と比べて0.5%減となった。(2018年GDP合計は1898億6850万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2019年3月は3.3%(2019年2月は3.3%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

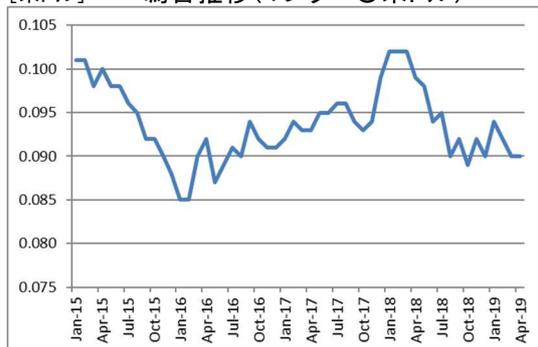
2019年4月30日

1プラ=0.090米ドル  
 1プラ=1.293南ア・ランド  
 1プラ=10.19円

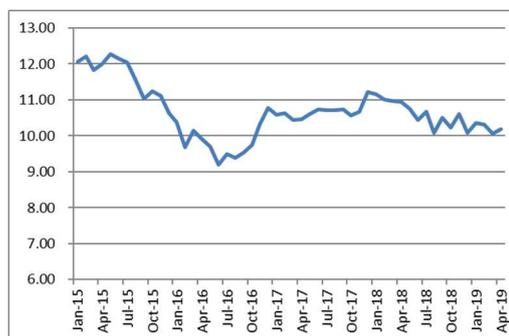
2019年3月29日

1プラ=0.090米ドル  
 1プラ=1.305南ア・ランド  
 1プラ=10.07円

[米ドル] 為替推移(1プラ=0米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=0円)



## ○ ダイヤモンド産業

### 1) デビアス社の第3期ダイヤモンド原石売上、前期より16%上昇

デビアス社の第3期ダイヤモンド原石販売会における売上は5億7500万米ドルとなり、第2期売上と比べて16%上昇し、昨年第3期と比べても9.7%上昇した。同社CEOは、第2四半期に入っても安定的なダイヤモンド原石に対する需要が続いていると発言した。(13日:ウィークエンド・ポスト紙)

### 2) 希少ブルーダイヤモンド「オカバンゴ・ブルー」の披露

17日、国営のオカバンゴ・ダイヤモンド社が所有する20.46カラットの希少ブルーダイヤモンドが披露された。同ダイヤモンドは2018年にデブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社の合弁企業)が所有するオラパ鉱山で41.11カラットのダイヤモンド原石として発見され、研磨後、「オカバンゴ・ブルー」と命名された。(23日:デイリー・ニュース紙, 24日:ボツワナ・ガゼット紙)

## ○ エネルギー・資源

### 1) 高等裁判所、BCL社鉱山の清算に関する政府資金提供の凍結を解除

10日、高等裁判所はBCL社鉱山の清算に必要な政府資金の半年間にわたる凍結を解除する判決を下した。BCL社の唯一の株主で最も大きな債権者である政府と同鉱山の清算人は清算の過程および清算に必要な費用を巡り対立していた。(12日:メヒ紙)

## ○ IMF、ボツワナの2019年の経済成長率予測を上方修正

世界通貨基金(IMF)は、ボツワナにおける景況感が改善していることから2019年の同国経済成長率予測を当初の3.6%から3.9%に上方修正した。3.9%の経済成長率予測はサブサハラアフリカ平均の成長率3.5%より高く、またSADC諸国平均の2.4%よりも高い数値となっている。(12日:メヒ紙)

## ○ ボツワナ銀行、基本割引率・基準貸付利率を5.0%に維持

24日、ボツワナ銀行は、金融政策委員会を開催し、インフレ率が政府目標の3~6%内となっており、価格の安定性にかかる見通しがポジティブであることを受け、基本割引率・基準貸付利率(当館注:従来の公定歩合)を5.0%に維持する決定を公表した。(26日:デイリー・ニュース紙)

## ○ ボツワナ航空の問題はさらに深刻に

ボツワナ航空はエンブラエルEジェットという航空機を購入したが、ケープタウンなどの新しい就航先に飛ばすという計画は、同機のライセンスがないということで頓挫している。このジェット機は昨年12月に届けられたものであるが、クルーが緊急避難のテストに合格することができなかったことが判明した。(26日:ガーディアン紙)

【文化】

○ 東北の美しい手仕事巡回展の開催

日本大使館は青少年地位向上・スポーツ文化開発省と共催で「東北の美しい手仕事」巡回展を国立美術館でオープンし、5月26日まで実施する。今週行われた開会式において、竹田大使は同展示会では日本に渡航せずに本物の日本の工芸品を見ることができ、ボツワナの人々にとって希少な機会である旨発言した。同開会式に出席したカーマ青少年地位向上・スポーツ文化開発大臣は展示会がボツワナと日本のコミュニティーの間の良好な協力関係の証明であると述べた。(26日:メヒ紙)